

「指導と評価の一体化」による
学習評価の充実・推進事業
実践発表会

関ヶ原町立関ヶ原小学校

メニュー		R5	R6	R7
①	自己調整力や自己評価力の育成につながる学習評価の在り方			
②	「主体的に学習に取り組む態度」の妥当性・信頼性のある評価の在り方	○		○
③	ICTを活用した、効果的・効率的な「指導と評価の一体化」の実現	◎	◎	◎
④	評価活動(各種テスト、レポート等)の工夫による適切な学習評価の在り方		○	

R5年度 「知識・技能」

R6年度 「思考・判断・表現」

R7年度 「主体的に学習に取り組む態度」

R7年度 「主体的に学習に取り組む態度」

関ヶ原小学校の研究主題

主体的に追究し、学びを深める子の育成



～算数科の指導を中心として～

問題把握

- ・ 本時の問題を把握した後「やってみたい」という思いをもつ姿

課題化

- ・ 「～を使えば解けそうだな」等、既習事項をもとに解決方法の見通しをもつ姿

個人追究

- ・ 自分の学習状況に合わせて解決方法を自己選択・自己決定し、粘り強く取り組む姿

集団追究

- ・ 自分の考えと仲間の考えを比べ、考えを修正したり他の方法を考えたりしながら交流を図る姿

評価問題

- ・ 追究過程を振り返り、本時の学びを自覚したり、解決方法の見直しをしたり、新たな問いを見出したりする姿

振り返り

- ・ 算数科で学んだことを生活の場面で積極的に活用しようとする姿

R7年度 「主体的に学習に取り組む態度」

関ヶ原小学校の研究主題

主体的に追究し、学びを深める子の育成



～算数科の指導を中心として～

問題把握

- ・ 本時の問題を把握した後「やってみたい」という思いをもつ姿

課題化

- ・ 「～を使えば解けそうだな」等、既習事項をもとに解決方法の見通しをもつ姿

個人追究

- ・ 自分の学習状況に合わせて解決方法を自己選択・自己決定し、粘り強く取り組む姿

集団追究

- ・ 自分の考えと仲間の考えを比べ、考えを修正したり他の方法を考えたりしながら交流を図る姿

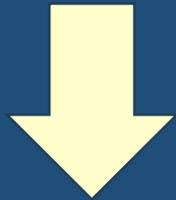
評価問題

- ・ 追究過程を振り返り、本時の学びを自覚したり、解決方法の見直しをしたり、新たな問いを見出したりする姿

振り返り

- ・ 算数科で学んだことを生活の場面で積極的に活用しようとする姿

振り返りの場で、
「追究過程を振り返り、本時の学びを自覚する姿」を生み出し、
評価するために



実践① 第3学年「表とぼうグラフ」(記録に残す評価)

個人追究での考えを録音し、振り返りの場で録音を聞き直すことで、
自己の考えの変容やその要因を自覚することができる。

また、その変容や要因を録音し、提出することで評価することができる。

実践① 第3学年「表とぼうグラフ」(記録に残す評価)

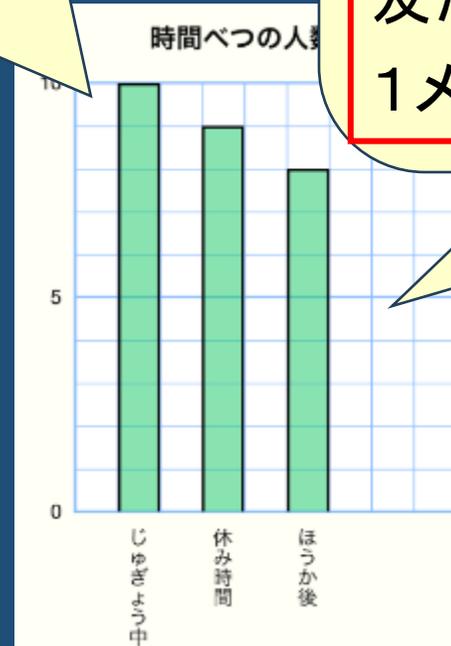
個人追究での考え

私が気付いたことは、
一つずつ階段みたいに下がっていることと、
授業中のすり傷が一番多いことと、
放課後のすり傷が一番少ないことです。

集団追究
全体追究



聞き直す



振り返り

私が最初に気付いたことは、
一つずつ階段みたいに下がっていることと、
授業中のすり傷が一番多いことと、
放課後のすり傷が一番少ないことです。

友だちの話を聞いて、
1メモリが1だということも分かりました。

自己の変容・要因



評価

【検証結果】

○成果

- ・録音をして提出をすることで、学級全員の評価を行うことができた。

●課題

- ・自己の変容を録音することができている児童は少なかった。



□改善策

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準をより具体的に設定する。
- ・より児童の実態に合った指導・援助を考える。
- ・児童が目的をもって追究活動を行うことができるようにする。
- ・記録に残す評価に至るまでの指導に生かす評価を明確にする。

実践② 第1学年「ひきざん」(指導に生かす評価)

□改善策

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準をより具体的に設定する。
- より児童の実態に合った指導・援助を考える。
- 児童が目的をもって追究活動を行うことができるようにする。
- 記録に残す評価に至るまでの指導に生かす評価を明確にする。

実践② 第1学年「ひきざん」(指導に生かす評価)

□改善策

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準をより具体的に設定する。

『指導と評価の計画』と『各単位時間における具体的な評価規準「おおむね満足(B)及び、十分満足(A)」』

時間	ねらい	学習活動	評価規準と評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方(減加法)を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 13-9の計算の仕方を、ブロックを使って考える。 減加法による計算の仕方を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①(行)(タ) (B) 減加法での解き方を、ブロックを使って考えている。 (A) B規準+ホワイトボードへの書き込み等、説明を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①(行) (B) 減加法での解き方を、ブロックを使って考えようとしている。 (A) B規準+ホワイトボードに書き込んだり説明を考えたりしようとしている。
2	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算(減加法)の理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 11-8の計算の仕方(減加法)を、ブロックをつかって考える。 ブロック操作と言葉を対応させながら練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①(ノ)(タ) (B) 「14-9」について、減加法で解くことができる。 (A) 類題を解くことができる。(正答率7/8) 		
3 本 時	10いくつかから1位数をひいて差が1位数になる減法の計算の仕方を考える活動を通して、被減数の10のまとまりから1位数をひく方法(減加法)だけでなく、繰越数の一の位から1位数をひく方法(減々法)があることに気づき、ブロックを使って解き方を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 12-3の計算の仕方を、ブロックを使って考える。 減々法による計算の仕方を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①(行)(タ) (B) 減々法での解き方を、ブロックを使って考えている。 (A) B規準+ホワイトボードへの書き込み等、説明を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①(行) (B) 減々法での解き方を、ブロックを使って考えようとしている。 (A) B規準+ホワイトボードに書き込んだり説明を考えたりしようとしている。
4	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算の仕方(減加法・減々法)を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 15-8の計算の仕方を、ブロックを使って考える。 減加法・減々法の2つのうち、やりやすい方法を見つけ、どちらでもできることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①(ノ)(タ) (B) 「13-6」について、減加法もしくは、減々法で解くことができる。 (A) 類題を解くことができる。(正答率2/3) 	<ul style="list-style-type: none"> ①(行)(タ) (B) 選んだ方法(減加法)の解き方を、ブロックで考えている。 (A) B規準+選んだ理由とができる。 	
5 ・ 6	ひき算の計算カードを使った活動をし、繰り下がりのある減法の計算を学習に生かそうとすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ひき算の計算カードを使って、減法の練習をする。 答えが同じになるカードを見つけたり、順序よく並んだカードから規則性を見出したりする。 カード取りやひき算ビンゴに取り組む。 			
7	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	教科書「たしかめもんだい」など、様々な問題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ②(ノ) (B) P.87「たしかめもんだい」を全て解くことができる。 (A) 類題を解くことができる。 		
8	基本的な学習内容を理解しているか確認し、定着させることができる。	単元末テストに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ①②(テ) (B) 到達度50% (A) 到達度96% 	<ul style="list-style-type: none"> ①(テ) (B) 「13-5」について、ひく理由を考えている。 (A) 到達度90% 	

評価規準を
B評価、A評価
共に、具体的に
設定する。

・ ①(行)
(B) 減々法での解き方を、ブロックを使って考えようとしている。
(A) B規準+ホワイトボードに書き込んだり説明を考えたりしようとしている。

実践② 第1学年「ひきざん」(指導に生かす評価)

□改善策

・より児童の実態に合った指導・援助を考える。

主体的

(思・判・表：C 主体的：B)

- 掲示物は参考にならないかな？
- 分からないところをペアの子に聞いてみるといいよ。
- ブロックを動かすことはできたね。どう説明しようかな？
- 上手に説明できるかな。練習してみよう。
- ペアの子に説明してみよう。
- ひきたし算は、ブロックをどこから動かしたかな？今日はどうか？
- 10のまとまりからひかないということは、どこからひくとよさそうかな？
- ばらからひくと気付けたね。そこが、ひきたし算とは違うところだね。
- さんは何て言ったのかな？自分の言葉で話してごらん。

(思・判・表：B 主体的：B)

- ホワイトボードに説明を書きこんでみよう。
- ペアの子に説明してみよう。
- ひきたし算のブロックの動かし方と、何が違うのだろう？
- どうしてばらからひくといいのだろう？
- 3を、いくつといくつに分けて考えているのかな。
- お話スペースで説明しておいで（聞いておいで）。ブロックの動きと説明が合っているか確認しよう。
- さんの説明に合わせてブロックを動かしてごらん。
- さんと一緒に説明ができて素敵ですね。
- たまたま $12 - 3$ はできたのでは？他のひき算でも同じようにできるの？

B 規 準

(思・判・表：C 主体的：C)

- 動画を見て、ブロックの動かし方を真似してみよう。
- ブロックはいくつ用意しようかな？どうしてそう思ったのかな？
- 12は、いくつといくつかな？
- ひきたし算では、10のまとまりからひいたね。今日の動画では、どこからひいているかな？
- ばらからひくと気付けたね。そこが、ひきたし算とは違うところだね。
- 説明シートを読みながらブロックを動かしてみよう。
- 上手に説明できるかな。練習してみよう。

(思・判・表：B 主体的：C)

- 算数迷路をやってみよう。進めていくとブロックの動かし方が分かるよ。
- 迷路に沿って動かすことができたね。下に書いてある説明を声に出しながらブロックを動かしてみよう。
- 上手に説明できるかな。練習してみよう。
- ペアの子に説明してみよう。
- ひきたし算は、ブロックをどこから動かしたかな？今日はどうか？
- ばらからひくと気付けたね。そのあとは？ひいてを何回しているの？ひきたし算みたいに名前を付けられそう？

思・判・表

□改善策

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準をより具体的に設定する。
- ・より児童の実態に合った指導・援助を考える。



実践② 第1学年「ひきざん」(指導に生かす評価)

評価規準を具体的に設定し、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の両面から児童の実態を捉え、4つのカテゴリーに分類・整理し、指導援助を考えることで、指導に生かす評価を行うことができる。

(思・判・表:C 主体的:C)

○動画を見て、ブロックの動かし方を真似してみよう。

●ブロックはいくつ用意しようかな？

どうしてそう思ったのかな？

●12は、いくつといくつかな？

●ひきたし算では、10のまとまりからひいたね。

今日の動画では、どこからひいているかな？

●ばらからひくと気付けたね。そこが、ひきたし算とは違うところだね。

○説明シートを読みながらブロックを動かしてみよう。

○上手に説明できるかな。練習してみよう。



(思・判・表:B 主体的:C)

○算数迷路をやってみよう。

進めていくとブロックの動かし方が分かるよ。

○迷路に沿って動かすことができたね。

下に書いてある説明を声に出しながら
ブロックを動かしてみよう。

○上手に説明できるかな。練習してみよう。

○ペアの子に説明してみよう。

●ひきたし算は、ブロックをどこから動かしたかな？今日はどうかな？

●ばらからひくと気付けたね。そのあとは？ひいてを何回しているの？
ひきたし算みたいに名前を付けられそう？



(思・判・表:C 主体的:B)

- 掲示物は参考にならないかな？
- 分からないところをペアの子に聞いてみるといいよ。
- ブロックを動かすことはできたね。
どう説明しようかな？
- 上手に説明できるかな。練習してみよう。
- ペアの子に説明してみよう。
- ひきたし算は、ブロックをどこから動かしたかな？ 今日はどうかかな？
- 10のまとまりからひかないということは、どこからひくとよさそうかな？
- ばらからひくと気付けたね。そこが、ひきたし算とは違うところだね。
- ○ ○ さんは何て言ったのかな？ 自分の言葉で話してごらん。



(思・判・表:B 主体的:B)

- ホワイトボードに説明を書きこんでみよう。
- ペアの子に説明してみよう。
- ひきたし算のブロックの動かし方と、何が違うのだろうか？
- どうしてばらからひくといいのだろうか？
- 3を、いくつといくつに分けて考えているのかな。
- お話スペースで説明しておいで(聞いておいで)。
ブロックの動きと説明が合っているか確認しよう。
- さんの説明に合わせてブロックを動かしてごらん。
- さんと一緒に説明ができて素敵ですね。
- たまたま $12-3$ はできたのでは？他のひき算でも同じようにできるの？



評価規準を具体的に設定し、「思考・判断・表現」「主体的に学習取り組む態度」の両面から児童の実態を捉え、4つのカテゴリーに分類・整理し、指導援助を考えることで、指導に生かす評価を行うことができる。

思・判・表 C
主体 C

減々法のブロック操作を行う動画を視聴し、
動画と一緒にブロック操作を行ったり、
話型を活用した説明の練習に取り組んだりする。

[視点1]

CC
↓
B.B

27 Y.S

わからない
↓ 声をかける
動画を観る
↓
指示書を読み
動画を観る
↓
説明を糸繰り返す
↓
評価問題で
Tと糸繰りに理解を
確かめられた

引く「1」だからできた?
15 S.H

減加のときに
動画を観てた
↓
減減法で説明
以降は取り組まない
↓
Tと糸繰りに説明

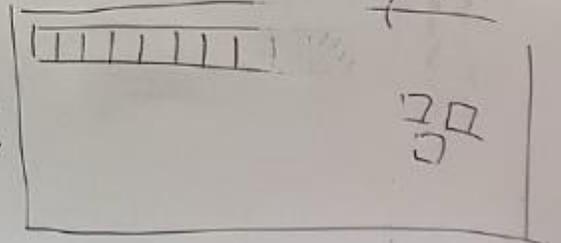
CC
↓
B.C (B)

個に応じた支援
・教師との関わりの中なら、
説明に取り組んでいく。

[視点2]

評価規準 (主体)
☆伝えようとする意欲
手立てとしての(動画)話型
} 粘り強さ
・わかるように糸繰り返す。
・活動への関わり。
発達段階の考慮

指導に生かす評価
・動画で手順を
説明し、提出(口)
・ペアで説明し、
お互いを評価し合



理解できたこと
喜ばれた
糸繰り返すこと
喜ばれた

【検証結果】

○成果

・「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」には大きなつながりがあり、両面から実態を捉え、指導・援助を考えることで、児童にとって効果的な指導・援助になっていた。

●課題

・同じカテゴリーに分類される児童の中でも、最適な指導・援助は異なるため、目の前の児童の実態を捉え、即時的に評価をし、指導・援助をする必要がある。

メニュー		R5	R6	R7
①	自己調整力や自己評価力の育成につながる学習評価の在り方			
②	「主体的に学習に取り組む態度」の妥当性・信頼性のある評価の在り方	○		○
③	ICTを活用した、効果的・効率的な「指導と評価の一体化」の実現	◎	◎	◎
④	評価活動(各種テスト、レポート等)の工夫による適切な学習評価の在り方		○	

R5年度 「知識・技能」

R6年度 「思考・判断・表現」

R7年度 「主体的に学習に取り組む態度」



自己選択

R7年度 「主体的に学習に取り組む態度」

関ヶ原小学校の研究主題

主体的に追究し、学びを深める子の育成



～算数科の指導を中心として～

問題把握

- ・ 本時の問題を把握した後「やってみたい」という思いをもつ姿

課題化

- ・ 「～を使えば解けそうだな」等、既習事項をもとに解決方法の見通しをもつ姿

個人追究

- ・ 自分の学習状況に合わせて解決方法を自己選択・自己決定し、粘り強く取り組む姿

集団追究

- ・ 自分の考えと仲間の考えを比べ、考えを修正したり他の方法を考えたりしながら交流を図る姿

評価問題

- ・ 追究過程を振り返り、本時の学びを自覚したり、解決方法の見直しをしたり、新たな問いを見出したりする姿

振り返り

- ・ 算数で学んだことを生活の場面で積極的に活用しようとする姿